

第8回中国地方の防災に関する連絡会 資料

平成30年度 中国地方の防災に関する連絡会の取組報告

「第4回南海トラフ巨大地震対策計画専門部会」

平成31年1月22日

■大規模災害時の「リスクの見える化」

(第7回 中防連 H30.1.18)

リスク回避・除去のため、複数機関が連携して対策すべきインフラ及びライフライン等の**リスクの見える化を推進**

(平成30年の取組内容)

- ①「リスクの見える化」として以下の項目を取組み
 - ・緊急輸送道路上の橋梁の耐震対策(中国5県)を整理
 - ・堤防の整備状況(岡山市及び広島市沿岸)を整理
- ② 具体的な活用案について意見交換(第10回WG H30.12.5)

南海トラフ巨大地震対策計画専門部会の取組

① 緊急輸送道路上の橋梁の耐震対策状況（中国5県）

- ◆ 緊急輸送道路において、大規模災害時の緊急救命活動や復旧活動を支えるため、大規模地震※1)による落橋や倒壊を防止する耐震対策を行っており、ほぼ完了している。(約6,300橋)
- ◆ さらにこのうち高速道路や直轄国道では、地震発生後の速やかな機能回復を実施するために、損傷が軽微となる耐震対策の完了を順次目指す。
 - ・大規模地震発生確率の高い地域※2)において、平成33年度までに、損傷が軽微となる耐震対策の完了を目指す
 - ・その他の地域は平成38年度までに、損傷が軽微となる耐震対策の完了を目指す

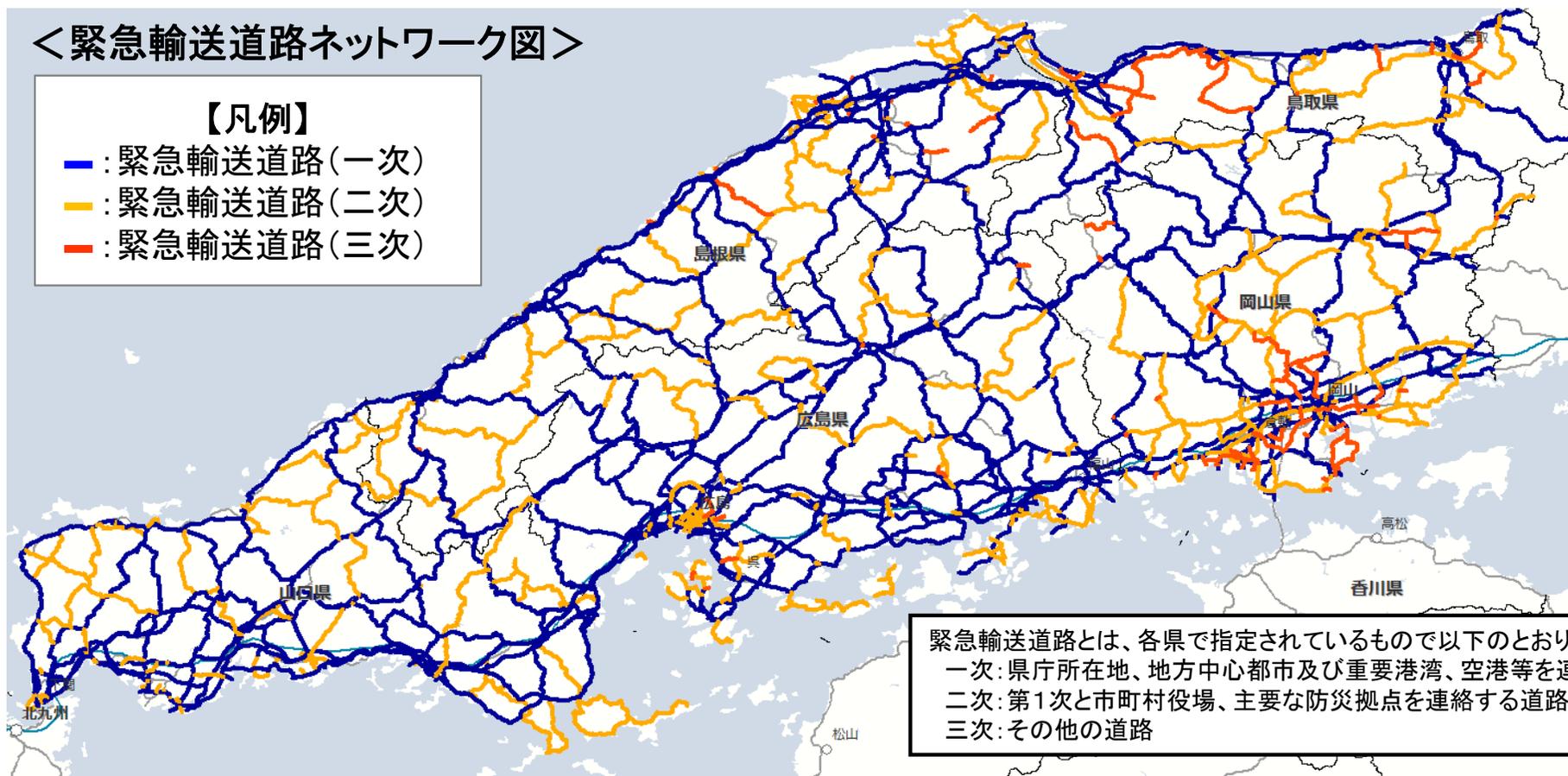
※1)兵庫県南部地震と同程度の地震

※2)首都直下地震や南海トラフ巨大地震等、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上の地域

＜緊急輸送道路ネットワーク図＞

【凡例】

- : 緊急輸送道路(一次)
- : 緊急輸送道路(二次)
- : 緊急輸送道路(三次)



緊急輸送道路とは、各県で指定されているもので以下のとおり
 一次: 県庁所在地、地方中心都市及び重要港湾、空港等を連絡する道路
 二次: 第1次と市町村役場、主要な防災拠点を連絡する道路
 三次: その他の道路

② 堤防の整備状況(岡山市、広島市沿岸)

岡山市及び広島市沿岸について各機関からデータ収集及び整理中

③ 具体的な活用方法等の意見

<各機関等での活用方法(案)>

- ・訓練計画等での活用を想定
- ・避難経路や参集経路、物資輸送経路のルート設定での活用を想定
- ・避難物資の備蓄配備箇所の選定での活用を想定
- ・重要施設の今後の配備計画での活用を想定
- ・発災前に“事前のあたり”をつけるために活用。実際には現地の状況確認が必要

<表示内容への意見>

- ・橋梁の耐震性能評価や津波浸水を想定すると防災担当者の参集ルート確保が課題
- ・陸域と海域をつなぐルートや輸送拠点となる港湾施設も併せて整理されると良い
- ・物資輸送の計画においては避難所等の情報も入ると良い
- ・液状化状況が分かると良い
- ・電子データでの提供を希望

・各機関から情報を提供いただき引続き作業を進める

平成30年度 中国地方の防災に関する連絡会の取組報告

「第4回連携訓練専門部会」

平成31年1月22日

■平成31年度 連携訓練の実施に向けて

(第7回 中防連 H30.1.18)

平成30年度は「南海トラフ巨大地震」などの大規模災害に備え関係機関が連携した対応を円滑に実施するための連携訓練を実施する。

(平成30年7月豪雨の発生)

- ・7月豪雨では、災害が各地で同時多発的に発生し大規模な災害となった
- ・各機関では、大規模な災害の発生を受け長期に災害対応を実施した
- ・このため訓練の実施に先立ち、この経験を反映させるため、WGにて振返りを実施した

(平成30年の取組み内容)

- ① 各機関での連携課題を抽出するため振返りを実施(第9回WG H30.10.19)
- ② 平成31年度の連携訓練内容について、振返りを踏まえ実施方針を検討(第10回WG H30.12.5)

連携訓練専門部会の取組

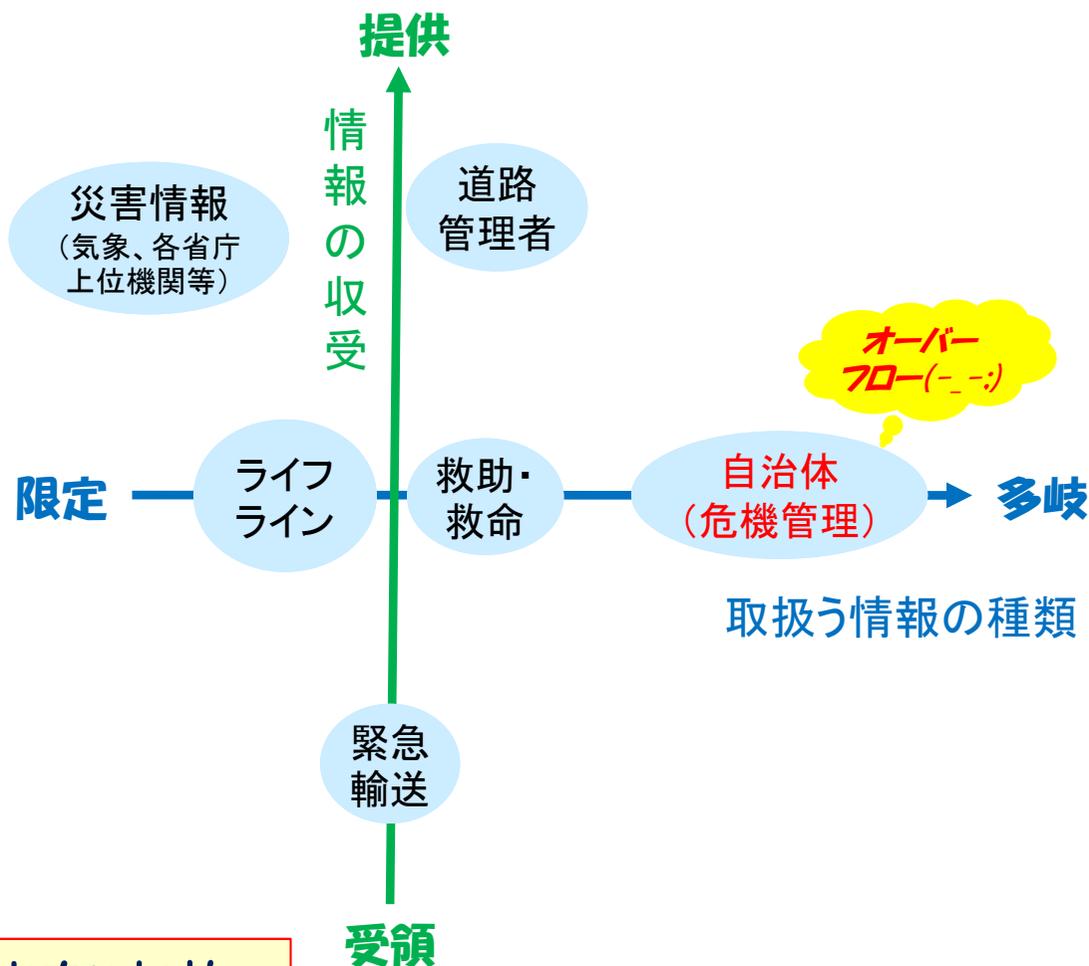
①平成30年7月豪雨の振り返り

7月豪雨の対応における「情報収集および提供」の主な課題として、以下の状況を把握

【課題】

- 被災自治体では、情報の収集・提供内容が多岐に渡り、処理が追いついていない
- リエゾンの派遣側と受入れ側で相互理解が進んでいない
 - ◆ 情報収集手段として各機関ともリエゾン派遣が重要と認識
 - ◆ リエゾンを派遣している機関も複数見られたが、受け入れ側ではリエゾンがどんな活動するのか分からず、どう連携してよいか分からなかった。
 - ◆ 派遣側では初動段階からリエゾンを派遣したが、現場ニーズが分からなかった。

中防連の機関間における連携(情報共有)



各機関のリエゾン活動に着目し訓練を実施

連携訓練専門部会の取組

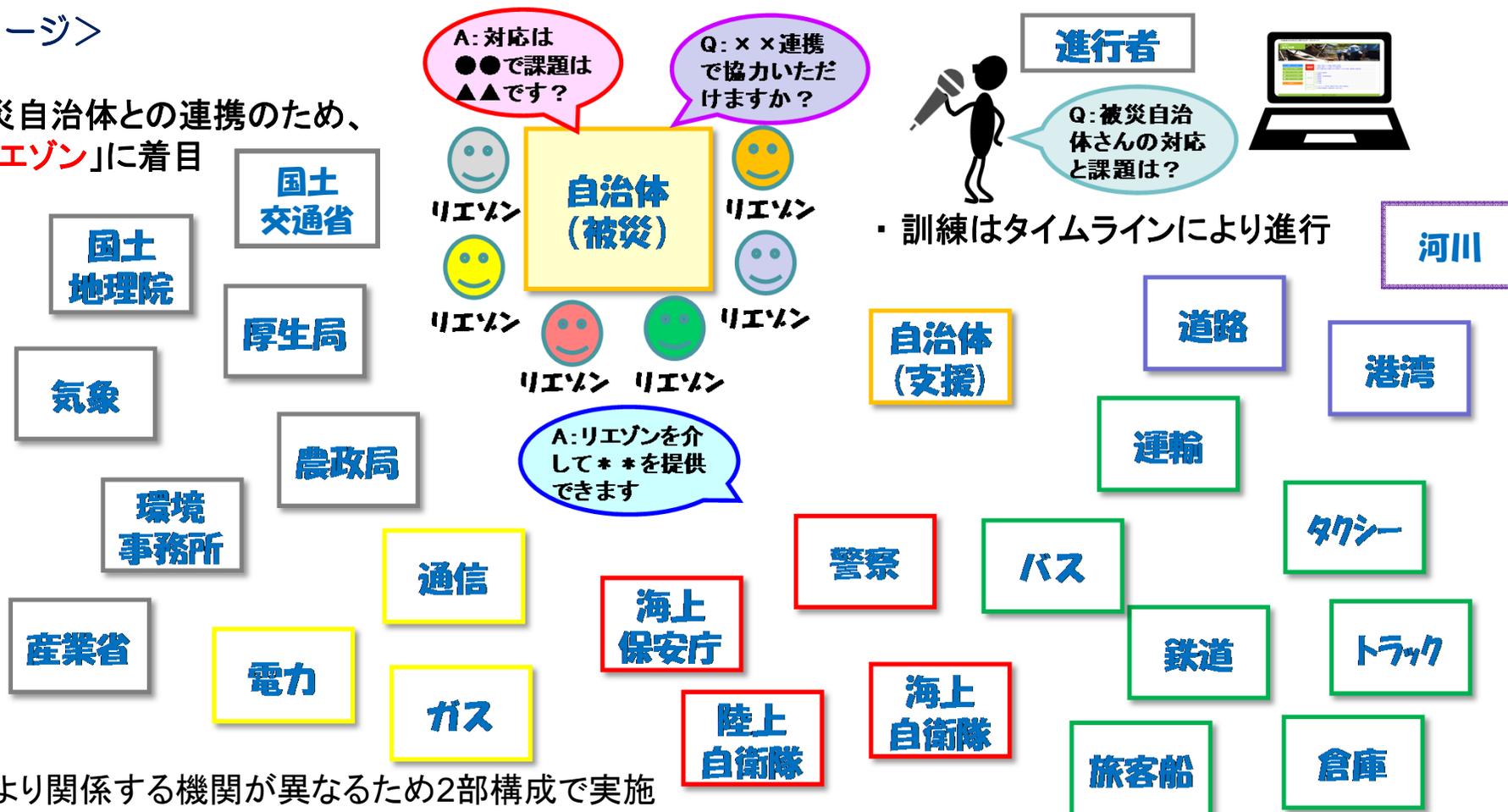
②平成31年度 連携訓練の検討

<実施方針>

- 各機関のリエゾン活動に着目
- 具体的な事象を想定（南海トラフ巨大地震被害）
- 質疑応答型の連携訓練を実施

<訓練イメージ>

- 被災自治体との連携のため、「リエゾン」に着目



※フェーズにより関係する機関が異なるため2部構成で実施

平成30年度 中国地方の防災に関する連絡会の取組報告

第3回緊急輸送専門部会について

平成31年1月22日

中国運輸局

第3回緊急輸送専門部会を開催

◆第3回緊急輸送専門部会の概要

日時：平成30年12月18日(火)10時45分～12時00分
 場所：広島合同庁舎 4号館附属棟 海技試験場
 出席者：部会構成メンバー15機関 27名

交通事業者 交通・物流団体	西日本旅客鉄道株式会社、中国バス協会、中国トラック協会、 中国旅客船協会連合会、中国地方倉庫協会連合会
地方自治体	広島県、鳥取県、島根県、岡山県、山口県、広島市、岡山市
国の機関	中国管区警察局、中国経済産業局、第六管区海上保安本部、 中国地方整備局、中国運輸局



専門部会全体の様子

◆専門部会の目的

平成30年7月豪雨における「関係機関の災害対応」と「緊急物資輸送と旅客輸送の課題と今後の取組」の情報共有によって、関係機関の連携強化を図る。

◆関係機関の災害対応



岡山県における旅客と物資の
対応(岡山県)



燃料油の供給状況について
(中国経済産業局)



自治体等の要請に基づく人員・
物資の輸送について
(第六管区海上保安本部)



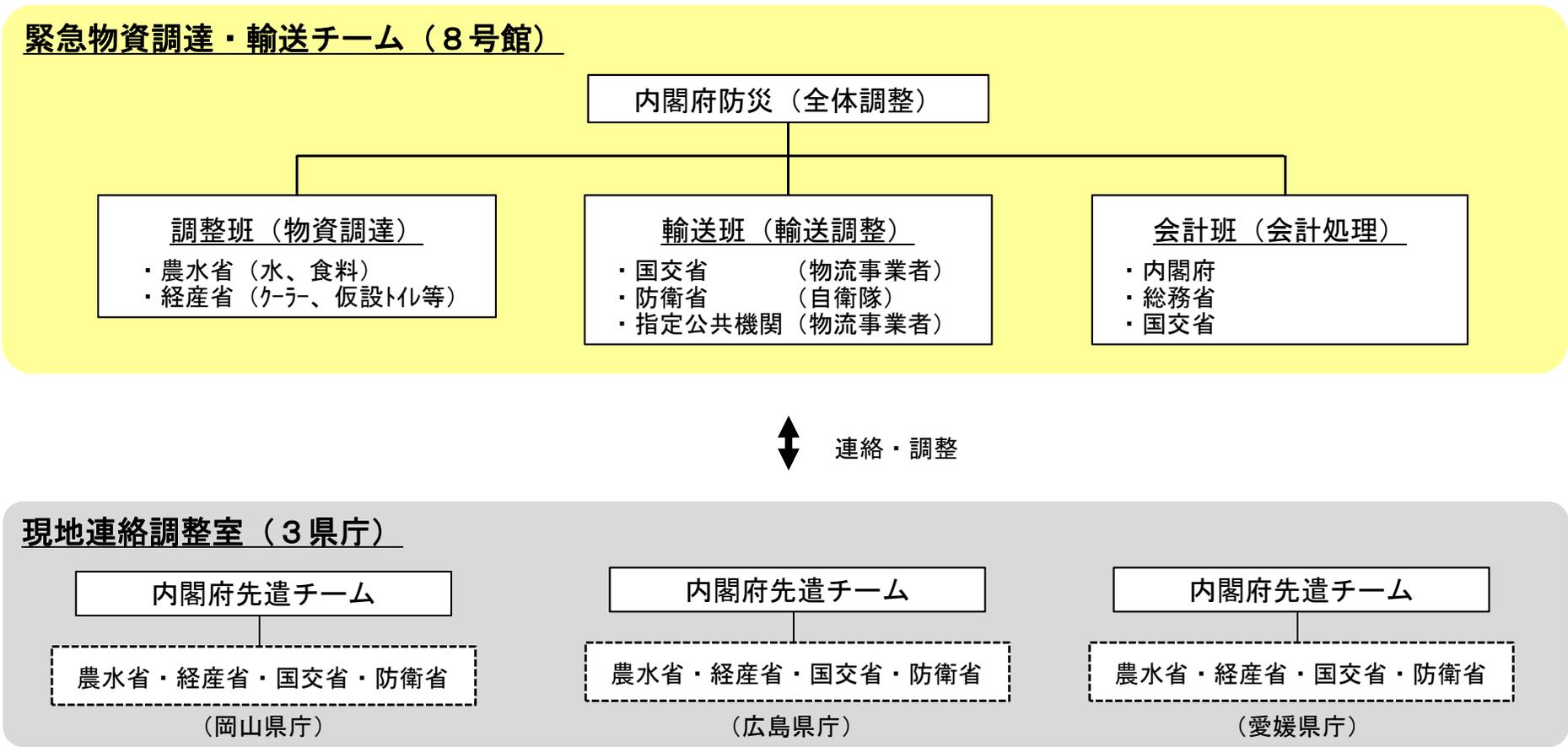
道路・航路の啓開
対応について
(中国地方整備局)



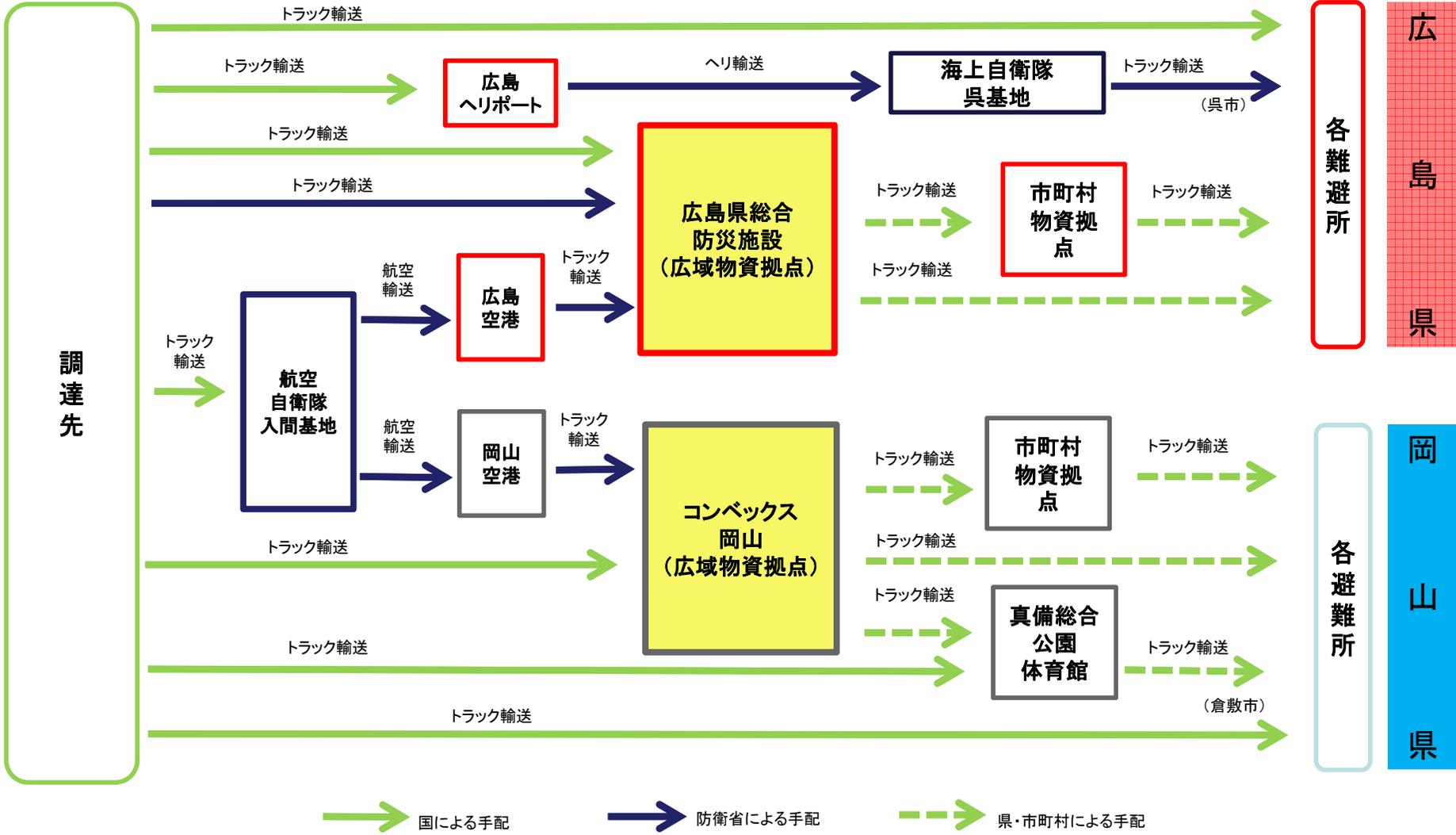
広島～呉間の通勤・通学対策について(広島県)

緊急物資輸送(緊急物資調達・輸送チームの体制)

- プッシュ型支援を円滑に実施するため、7月10日、内閣府防災に、農林水産省、経済産業省、国土交通省、防衛省等からなる「緊急物資調達・輸送チーム」を設置。(最大約30名が8号館に常駐)
- また、岡山、広島、愛媛の3県に、内閣府、農林水産省、経済産業省、国土交通省、防衛省からなる現地連絡調整室を設置。



緊急物資輸送(物資輸送イメージ)

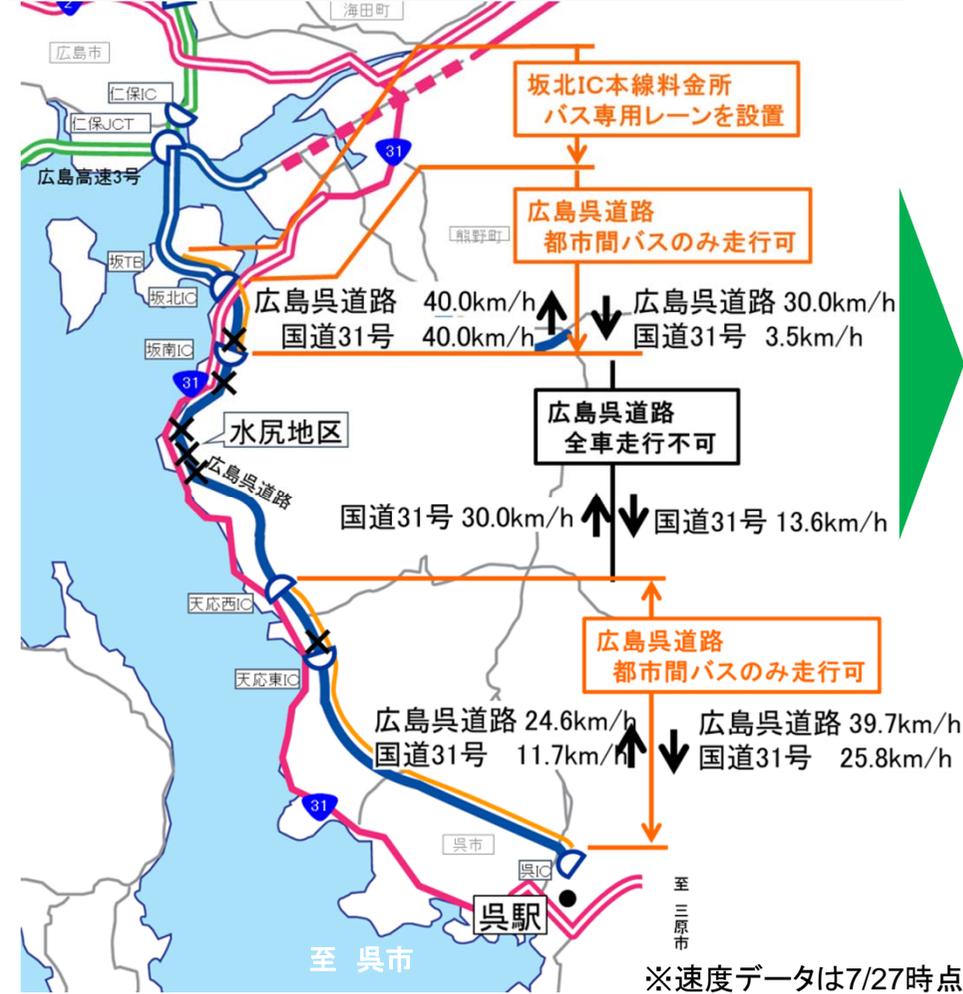


呉地区の孤立解消・渋滞対策(陸上交通)

- 7/6：呉市水尻地区の山地崩落等により、広島呉道路、国道31号、JR呉線、東広島呉道路が全て止まり、呉市が孤立。
- 7/10：東広島呉道路の通行止め解除 7/11：国道31号の迂回路の緊急整備により通行止め解除。
- 全国で初めて災害時BRT※を導入するなど、交通集中による渋滞対策を実施。
 - ・ 7/17～9/27：広島呉道路の通行可能区間をバス専用レーンとして活用 ⇒広島呉道路の開通(9/27)、呉線開通(9/9)により、これらの措置は終了。
 - ・ 8/ 9～9/ 7：国道31号にバス専用レーンを設置

■広島呉道路におけるバス専用レーンの設置

※災害時BRT・・・災害時に一般車両が通行止めとなった道路をバス専用レーンとして活用し、速達性・定時性を確保する運行方式



所要時間の短縮効果

呉駅	→	広島市街 (広島バスセンター)	→	広島市街 (広島バスセンター)	→	呉駅
都市間バス		1時間00分		都市間バス		1時間38分
広島呉道路(呉IC～天応西IC)～国道31号～				広島高速3号～広島呉道路(仁保JCT～坂南IC)～		
広島呉道路(坂南IC～仁保JCT)～広島高速3号経由				国道31号～広島呉道路(天応西IC～呉IC)経由		
一般車両		1時間28分		一般車両		2時間36分
国道31号～広島呉道路(坂北IC～仁保JCT)～				広島高速3号～広島呉道路(仁保JCT～坂北IC)～		
広島高速3号経由				国道31号経由		



呉駅の臨時運行バス乗り場



国道31号のバス専用レーン

呉地区の孤立解消・渋滞対策(海上交通)

- 海上交通を最大限に活用し、渋滞の緩和や定時性の確保に貢献。※平常時の約150倍
- 中国運輸局では、海上運送法の弾力的運用や旅客船の安全確認を実施し、迅速かつ安全な運航を実現。
- 陸路の渋滞対策等により平時の利用状況に戻ったこと等から8/31までに終了。

【広島～呉間の渋滞緩和・定時性の確保】

- JR西日本宮島フェリー(株)による臨時運航
呉港→広島港(7月17日～8月1日 平日朝1日1便)
- 瀬戸内海汽船(株)の定期航路における増便
広島港～呉港(7月7日～8月31日 最大1日6便増)

【呉市川尻・安浦地区における移動手段の確保】

- 災害時緊急輸送船「キャットクルーズ」の臨時運航
川尻港～呉港(7月30日～8月22日 平日1日1往復)
 - 災害時緊急輸送船「キャットクルーズ2」の臨時運航
仁方港～呉港(8月7日～8月22日 平日1日1往復)
- ※「女猫の瀬戸」を通過するため航路名を「キャットクルーズ」と命名

【呉市天応地区へのボランティア輸送】

- 災害時緊急輸送船「さくら直行便」の臨時運航
呉市天応(呉ポートピアパーク棧橋)～広島(宇品)港
(8月6日～10日 1日4往復、8月16日～31日 1日2往復)
- ※ボランティアについては無料送迎



緊急物資輸送と旅客輸送における課題等

◆緊急輸送物資について

課題・検討事項

1. 物資拠点の選定では、災害時に営業中の民間施設の使用が困難 等
2. 二次拠点の運営では、拠点運営スタッフは物流の知識が乏しい 等
3. 物資支援マニュアルでは、内容が複雑で物流初心者には難解 等
4. その他として、関係者間で顔の見える強い関係の構築 等

取組方針

1. 物資拠点リストアップの更なる推進 等
2. 市町等二次拠点スタッフの物資支援訓練への参加を促進 等
3. 本省作成中の基本マニュアルに簡略化等の現場の意見を反映 等
4. 事務担当者会議の定期的な開催 等

実施目標

1. 各県と運輸局が連携して候補施設の発掘と協力取付けにあたる 等
2. 各県は協定に基づく二次拠点に専門家を派遣出来る体制づくり、国は県外からの専門家派遣を調整 等
3. 機能的でシンプルなマニュアルのひな形の作成を要請 等
4. 担当者会議の年度当初開催と訓練へ関係機関の参加 等

◆旅客輸送について

➤ バス輸送について

主な課題

1. 一般路線バスでは、道路状況が判らないと運行計画が立てられない。情報の集約、運行計画の発信が運行管理者に集中する 等
2. 鉄道等代行バスでは、応援車両の手配・駐車場の確保・乗務員の宿泊施設の確保、道路状況の正確な把握 等
3. 緊急輸送バスでは、輸送先の受入れ体制整備、指揮系統の輻輳 等

主な検討事項

- . 共通事項として、道路管理者との情報共有、取得のあり方の検討 等
- 1. 荒天が予見される場合の計画運休の公表、燃料の備蓄 等
- 2. 宿泊施設、駐車場等の受け入れ先候補の検討・リストアップ 等
- 3. 受入れ先の環境整備、バス事業者の位置、配置車両数の見える化 等

➤ 旅客船輸送について

主な課題

1. 緊急支援物資等の輸送では、複数自治体からの輸送要請が集中。要請時に輸送を引き受けるための詳細情報が不足 等
2. 代替輸送の確保では、輸送力強化のための設備費用等が事業者負担であった。予備船を保有している事業者が少ない 等
3. 旅客ターミナルでの案内・誘導が、旅客船事業者・港湾管理者のみでの対応となり、人員不足だった 等